

令和4年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立飯野川小学校

教諭 星 深雪

1 はじめに

石巻市立飯野川小学校は、明治6年に「相野谷小学校」として開校し、東日本大震災後に、飯野川第一小学校と飯野川第二小学校が統合され、現在の飯野川小学校になった。飯野川小学校では、「志高く、未来を拓く児童の育成」を学校・地域教育目標に掲げ、この教育目標具現化のために、目指す児童像を「やさしい子」「かしこい子」「たくましい子」「地域と共に生きる子」とし、地域とのつながりを大事にしながら教育活動を進めている。

学区内には、総合支所、消防署などの公共施設が数多くあるが、実は税金で建設されたり、運営されたりしていることを知らない児童が多い。よって、今回の租税教育を通して、児童が地域と税との関わりについて学べるようにしていきたい。また、学区の特徴として、昔ながらの商店が立ち並び、身近なところに買い物などの消費行動を目にすることは多い。ただ、地元の商店で買い物をするよりも、少し足を伸ばした大型店舗での買い物の機会のほうが多く、自分自身での買い物の経験はあまり多くない。金融機関は郵便局や銀行などが充実しているものの、県民税や市民税、自動車税などの各種税について金融機関を通して払い込んでいることを目の当たりにした経験は少ないと言える。したがって、児童が自分と税との関わりについても学べるようにしていきたい。

2 児童の実態（男子18名 女子12名 計30名）

本学年の児童は、委員会の仕事、当番の仕事など、自分の役割をしっかりと果たす責任感の強い児童である。学習では、難しい課題や初めての課題には抵抗を示すこともあるが、基本的には真面目に取り組み、友達と一緒に解決しようとしたり、理解しようと努力したりする姿も見られる。

また、社会科の学習では、「国の政治のしくみと選挙」の単元で、公共サービスや公共施設にかかる費用の多くは税金で賄われていることを知り、税金の働きについて調べる学習を行ったが、具体例などを示しても、なかなか実感がわかないようだった。

つまり、税に対する基礎的・基本的な知識や興味関心が乏しいと考えられる。

そこで、今回の租税教育を通して税に関する基礎的・基本的な知識と理解の定着を図り、税に対する興味関心を高められるようにしていきたい。

3 指導に当たって

指導に当たっては、前述を踏まえ、次の三つの手だてを講じていく。

(1) 自分と税との関わり

成長に伴い消費税を実際に支払う場面が多々出てくるので、特に自分と消費税との関わりを重視していく。そのために、実際の買い物を通して、どれくらい消費税を納めたことになるか算出し、納税を実感できるようにしていく。

(2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

税務関係者等を講師として招聘し、租税教室を実施する。その中で、税金とは何か、消費税以外にどんな税の種類があるか、税金は何に使われているかなどについて具体的に教えていただくようにする。

(3) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)の手だてを講じた上で、振り返り(学習感想)の機会を十分に確保する。今後の自分と税との関わり方について考えさせ、価値付け、称賛していく。

また、「税に関する絵はがきコンクール」の作品づくりを通して、税金に関して理解と関心を深め、考えるきっかけとなるようにする。

4 総合的な学習の時間、社会科との関連

(1) 総合的な学習の時間との関連

○横断的・総合的な課題(現代的な諸課題)

・自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題(資源エネルギー)

○地域や学校の特色に応じた課題

・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織(町づくり)

・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会(地域経済)

(文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

総合的な学習の時間編』, 日本文教出版)

(2) 社会科との関連

「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。その際、限られた財源をどのように配分するのかを決める責任は、国会や地方議会などの制度を通して、国民や住民にあることに触れるようにする。

(文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

社会編』, 日本文教出版)

5 指導計画（3時間扱い）

時	主な学習活動	内容
1	○選挙のしくみと税金の働き	・選挙のしくみについて知る。 ・税金の種類と税金が使われている公共施設やサービスについて知る。 ・税金の使われ方と選挙の関わりについて考える。 （社会科）
2	○自分たちの暮らしと税金の関わり	・もしも税金がなかったら？ ・自分たちの暮らしと税金 ・税金の大切さ （石巻税務署の方による租税教室）
3	○身近な消費税について	・実際に買い物をする。 ・レシートを見て、消費税をどれくらい支払ったか調べる。 （総合的な学習の時間）

6 実践

（1）自分と税との関わり

修学旅行の際、児童はおみやげを購入したり、絵付け体験をしたりし、1人約8,000円を使った。そのうちの8～10％は消費税として納税したことを説明した。

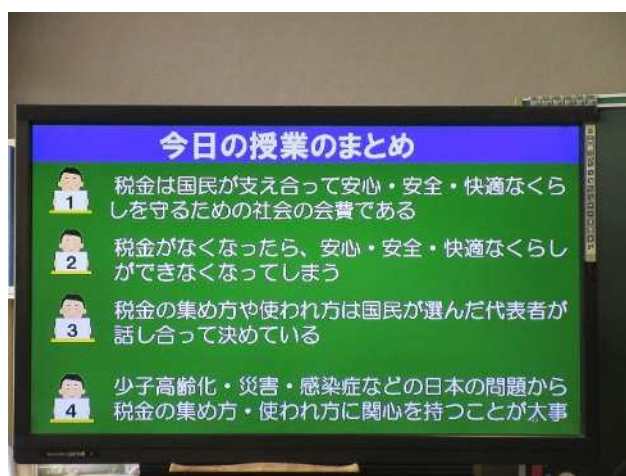
その後、児童は6年の算数で学習した「比」を活用して、実際にいくら消費税を納めたのか金額を算出した。1人につき、700円前後の消費税を納めたことが分かった。感想から「意外と高い税金を支払っている。」「700円あったら、もう1つお土産が買える。」と消費税額の大きさを実感することができた。



(2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

租税教室の中で、税の種類、税の使い道、納税は国民の三大義務であることを教えていただき、税に関する基礎的・基本的な知識を押さえることができた。

また、特に印象的だったことは、税金が無くなったら世の中はどうになってしまうのか動画で紹介してもらったことである。税金が無くなったら、公共サービスを受けられなくなってしまう。例えば学校の教科書が有料となること。病院での受診・手術などに莫大な費用がかかること。橋や道路が個々人のものになってしまい、不当な交通料を支払わなければならないことなどが紹介された。児童から「税金がないと確実に不安定な世の中になる。税金は国民全員が支払う必要がある。」という感想が挙がり、納税の必要性を感じることもできた。



〈 租税教室の感想 〉

アニメであった税金が無くなるとどうなるのかが想像以上にこわれてびっくりしました。社会で税金などの勉強しましたが知らないことも多くて、国のことを知る良いきっかけになったと思いました。

税金の種類は消費税しか知らなかったけど他にも所得税などの種類もあってびっくりしました。税金は安心安全で快適な社会の会費で税金がないと安心安全で快適な社会ができなくなると思いました。小学校にかかる税金は1校あたり約15億円とびっくりしました。

税金には約50種類もあるのはびっくりしました。税金をはらわないと色々なことが起こる時に救急車に乗って目撃してもらうにもお金がかかるのはびっくりしました。税金はあった方がいいと思いました。税金について教えてもらって税金のことに興味をもつことができました。ありがとうございました。

日本には約50種類の税金があると知っておどろきました。税金が無くなってしまうと町がゴミだらけになり、通行料を払わないといけなくなる、快適な生活ができなくなってしまうということが分かりました。

(3) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)の活動の中で、振り返りの機会を十分に確保してきた。上述した通り、自分と税との関わり、税のよりよい使われ方、消費税額の大きさ、納税の必要性などについて考えたことで、税に対する興味関心を向上させることができたと考え

〈 税に関する絵はがきコンクール 〉



7 成果と課題

- 消費税の納税経験により、税額の大きさを実感することができた。
- 租税教室に参加することで、税について知り、納税の必要性を理解することができた。
- 様々な学習を通して、税金への関心が高まった。
- 税金に関する学習は、社会科の内容だけでは理解が難しい。継続的な学びが必要である。

租税教室



名前

8月30日 (火)

☆学んだことや感想を書きましょう。

☆わかったことや大事だと思ったことをメモしましょう。
